

第 873 号

令和 2 年 1 2 月 7 日

佐渡市立金井小学校
佐渡ことば・こころの教室

教室だより

〒952-1209

佐渡市千種丙178番地1

TEL:0259(63)4156(直)

4115(代)

FAX:0259(63)4117

E-mail:skotoba@sado.ed.jp

HP:<http://kanai-es.sado.ed.jp>

(教室だよりのバックナンバーも掲載中)

人との距離感

佐渡市立両津中学校

校長 加藤 雄一郎



昨年度、面接指導で「中学校で学んだことは何ですか」と質問したところ、「なかなか人との距離感がつかめず迷った時があったけど、相手や周りのことが見えてきてうまく人と接しられるようになりました」と答えてくれたA子がいました。自分の言葉でしっかり答えたA子の成長を感じ、とても嬉しくなったことを覚えています。

さて、「人との距離感」って何だろう。ついべたべたしすぎたり、よそよそしかったり、近づきすぎて苦しくなったり、近づきたいのに離れたり。悪気はないのに相手を不快にさせてしまったり、分かってくれていると思いついで傷付いたり…、なかなか難しい。

今、コロナ対策で人との距離を1~2m取っています。飛沫感染を防ぐためのソーシャルディスタンスです。この距離は見て分かるのに、メンタルディスタンスはその相手やその時々によって違っていき分かりません。

A子のように“相手や周りのことが見えてきた”という感覚を持てるという。相手がどう感じているのかを尊重しつつ、すべての人に好かれようと思わず、距離を取った方がよい人がいるということも大事なことです。

『分かる』とめっちゃやる気になる

体育祭練習や定期テストの直後、どんなに疲れきっていても、自分の苦手教科をひたむきに頑張るAさん。ある日、Aさんに『わたしだったら、少しはリラックスしたいと思うけど、なんでこんなにがんばられるの?』と聞いてみました。すると、『分かったらやる気が出て、めっちゃやる気になって、がんばれます。』と笑顔で答えてくれました。

Aさんは、大切なことを教えてくれている感じがします。『分かる』ことそのものが子どもにとってどれだけ楽しいことか。そして、『分かる』ことがどれだけ子どもを意欲づけることか。逆に、『分からない』ことがどれだけ子どもにとって苦痛で、子どもを傷つけていることか。

そして、Aさんは自分から『分からない』と言えることも増えてきました。『自己肯定感』がもてるようになると、『分からない』と言えて、意欲的にひとつひとつ乗り越えていける。『レジリエンス(忍耐強さ)』の備わっているAさんだからこそがんばれるのかなと、改めて思うべきごとでした。(Aさんありがとう!)



(萩野)

親の会コーナー



保護者の声

羽茂地区 N・W

か行の言葉がなかなか発音できないことから、お世話になり始めました。先生の丁寧な御指導のおかげで、発音はすぐ見違えるようになくなっていきましたが、小学生になり、ひらがなの勉強が始まると、言葉だけでなく、いろいろな面で気になるところが見えてきました。

長男の時は何にでも気にかけていたことが、次男は放っておくことも多く、共有する時間が少なくなっていたことに反省ばかりです。教室へは毎回楽しみに通い、苦手だった促音や拗音にも慣れ、今は文章を読むのが楽しいようで、よく本を読み聞かせてくれています。

親子の時間を見直す、よいきっかけをくださった、ことば・こころの教室には大変感謝しております。

お手紙が届きました

前親の会会長 田中 美紀様より、お手紙が届きました。紹介します。

親の会の皆様へ

新型コロナウイルス感染予防のため、学習会を開催できずにいます。親の会の活動を心の拠り所にしていたので、楽しみにしていた私は残念でなりません。

会員の皆様はどうですか？辛くはありませんか？辛い気持ちを吐き出していますか？元の生活にもどれるまでと思って、我慢していませんか？いつ終息するか見通しが立っているわけではないので、限界まで我慢しないでくださいね。窓口はいくつもありますから、SOSを出してくださいね。

大勢で集まる事を控えなければいけない状況なので、親の会でできる事が思い浮かびません。代替案を思いついた方は、教室を通して教えていただけたら幸いです。一日も早く、会員の皆様が手を取り合って、活動ができる日が来る事を願わずにはられません。

今回、田中様からお手紙をいただき、大変ありがたく思っています。親の会コーナーが親同士のつながりの場となるようにしていきたいと思っています。

ことば・こころ応援団



今月のことば・こころ応援団は、石見 薫様（元担当者、現佐渡市立高千小学校長）です。石見様は、平成4年からと、平成16年からの2度に渡って、教室を担当されました。平成6年に博報賞を受賞したときにも、教室を担当しておられました。今年度、2度目の博報賞の受賞に際し、エールをいただきました。

楽しく遊んで

元担当者 石見 薫

皆様、子どもと楽しく遊んでいますか。

私は、ことばの教室で、たくさん子どもと楽しく遊んできました。「下手な指導よりは楽しい遊びを」という気持ちで、子どもたちが教室に通ってきて満足して帰れるようにしてきました。そして、遊びがもっと楽しくなるように常に最新鋭のゲームやおもちゃを用意したり、遊び方や関わり方を工夫したりしてきました。ある時の指導で、保育園児と怪獣ごっこを始めると、付き添いのお母さんに笑われてしまいました。あまりにも子どもっぽく遊んでいたからでしょうか。

遊びには様々な効用があります。指導そのものに遊びのようなやり方を取り入れることもありますが、ただただ楽しく遊ぶこともあります。後者の遊びでは、子どもの気持ちが発散して精神的な安定が図られると、ことばの問題も軽減していくことが多かったです。

保護者の皆様も子どもとの遊びを日々楽しんでおられることと思いますが、時には子どもの気持ちになって、全集中で楽しく遊んでみてはいかがでしょうか。

